

流動性資産がマーケット・シェアに与える影響

明治大学 呉 東錫

本稿の目的は企業の流動性資産（現・預金と短期有価証券の合計）保有が企業のマーケット・シェアに与える影響について実証することである。依拠するモデルは、企業の超過流動性資産保有がマーケット・シェアに与える影響を実証した Fresard(2011)のモデルである。

企業に流動性資産が増加すれば、設備投資、研究開発、効率的な流通ネットワークの構築などを外部資金に頼らずに実行することができるようになる。また、資金力の強い競争社が存在する場合、その企業が略奪的な行動を行うことに対する予防的な機能も持っている。これらの点は流動性資産のプラス面である。Fresard(2011)はこの流動性資産のプラス面に焦点を当てる。したがって、企業の流動性資産保有の増加はマーケット・シェアに正（+）の効果を持っていると強調する。

しかし、企業の流動性資産にはマイナス面も存在する。Jensen(1986)などが指摘するとおり、企業が過剰な流動性資産を保有すると、企業資源の浪費に繋がる可能性が高くなる。また、企業の流動性資産保有は設備投資や収益資産への運用に対する機会費用にもなる。このような流動性資産保有のマイナス面は、企業価値と株式リターンの低下にもつながる。

上記のことを踏まえ、本稿では、Fresard(2011)のモデルに企業の過剰な流動性資産保有を捉える変数を加え、実証を行う。実証の結果、企業の過剰な流動性資産保有は、流動性資産保有がマーケット・シェアに与える影響を逡減させることが明らかとされる。